

広報

なんせい

第37号

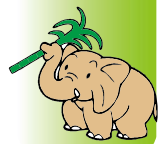
発行 南西糖業株式会社 編集 総務部
〒891-7621
鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337
Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129



たいせつな人に
「ありがとう」

© 2019 南西糖業株式会社

新年のご挨拶



代表取締役社長
神崎 俊

新年あけましておめで
とございます。

令和二年二月から三年
に亘り猛威を振るいまし
た新型コロナウイルスも、
ここに参りましてなんと
か収束に向かっているよ
うであります。皆様久方
ぶりにご家族お揃いで明
るく清新な新年を迎えて
おられるものと存じま
す。

さて、令和二／三年期
に18万トンを超えたさ
とつきびですが、前々期
の令和三／四年期には1
7万トン強にまで減少
し、令和四／五年期も約
17万トンとなりまし

た。この間、作付面積は
3,400haから3,2
00haにまで減少し、単
収も54.0トン／haか
ら53.3トン／haに低
下しております。

面積減少、単収低下に
よる生産量減少は、さと
つきびが原料である弊
社に取りましてはまさ
に大変な状況でありま
すが、さとつきび産業
全体にとりましても厳
しいものとなってきて
おります。

さらに、今期(令和
五／六年期)は十一月
時点での見通しではあ
りませんが、面積は3,
141haと過去最低と
なり、さとつきびの生
産量は前期から1万ト
ン減の約16万トンと
の予想になっておりま
すことは、弊社を含め
さとつきび関連産業や
関連機関にとりまして

看過できない状況に
ございます。

そのような厳しい状
況下、弊社といたしま
しては、ビレットプラ
ンターの活用による新
植拡大、スマート農業
の推進による農作業の
省力化など単収向上と
生産の拡大に向けての
取り組みを続けるとと
もに、併せて工場のI
T化、省力化もこれま
で以上にスピードを上
げて取り組み、効率化・
ローコスト化を目指し
てまいります。

弊社はさとつきびが
徳之島の経済・社会生
活の向上に資するもの
であると確信してお
り、さとつきび産業の
一員としてそれに貢献
すべく一層尽力して
まいります。所存であり
ます。

皆様の多大なるご
支援を伏してお願
い申し上げます。
最後になりますが、
皆様の本年のご多
幸を心よりお祈り申
し上げ年頭のご挨拶
といたします。

今期の製糖計画(注)

キビ処理見込量	16万トン	
製糖開始日	令和5年12月20日(水)	
年内搬入終了日	令和5年12月27日(水)	
年明け搬入開始日	令和6年1月8日(月)	
工場 休止 日	年末年始	令和5年12月30日(土) ～令和6年1月7日(日)
	春植推進日 (予定)	①令和6年2月5日(月) ～2月6日(火) ②令和6年3月4日(月) ～3月5日(火)
キビ搬入終了予定	令和6年3月22日(金)	

(注)R5.12.11 時点の予定です。変更となる場合もあります。

頑張るさとうきび農家のご紹介

今回は、大島郡内の若手さとうきび農家を対象に、先ごろ行われた第一回キビ1グランプリで、優秀賞に輝いた(有)大竹興産の大竹広之さん(伊仙町)を紹介します。

大竹さんは県内の信用金庫に三年間勤務したのち、父親が経営する(有)大竹興産へ入社しました。

現在の営農規模

大島郡内でも、さとうき



大竹 広之さん

大竹 広之さん(34歳)

経営規模等:さとうきび 35ha

従業員:7名

所有機械:トラクター 4台,油圧ショベル

ハーベスター2台、自作機を含め多数

栽培の課題と 取り組み

魅力を感じ、後継者として頑張っています。

(有)大竹興産では規模拡大に伴う課題として作業の競合・農業資材の高騰・安定した植付け・雑草対策を掲げ、それらの解決に取り組んでいます。

植付け作業は、全茎式プランターからビレットプランター(BP)へ移行し、短期間でより多くの植付けを可能にすると共に、種苗本数を無駄に使わないよう



すき込み施肥機



改良を加えたビレットプランター

に、専用の種苗ほ場の設置やハーベスター採苗時の芽の損傷防止と種苗投入量の調整を繰り返し、全茎式プランター並みの種苗数で、従来以上の発芽本数を確保しています。株出管理作業で行う施肥による雑草繁茂への対策として、「すき込み施肥機」を自社開発、この作業機はけん引深耕しながら土中20センチに施肥するため、雑草を抑制し、これにより除草剤の使用量も削減しています。牽引式の作業機なのでミニトラクターによる高

速走行が可能となり時間短縮の効果があり、作業競合の解消に繋がっています。このように課題解決に創意工夫して取り組み、今期は二千トンの生産量を目指しています。

余暇の活用

広之さんは、作業改善により時間的に余裕が出たことで、家族と過ごす機会が増えたことと趣味の魚釣りの時間が増えたことが嬉しいと笑顔でおっしゃっていました。



大竹 さん親子

第一回 キビ1グランプリ

群島各市町村代表の若手農家がキビ作りの魅力、取り組みを発表する『キビ1グランプリ』が11月16日に奄美市名瀬で開催されました。

最優秀賞を受賞した開(ひらく) 孝行さんは喜界町中北部を中心に約20畝の栽培を営むキビ農家で、株出の反収向上に注力し、近年の株出平均反収は7.3トンと優れた実績を挙げられています。

株出管理の特徴は、収穫後直ちに株ぞろえ、施肥と土壌処理を実施し、中耕作業はしておりません。また、施肥は標準より多く窒素を施用するため、6月までに数回に分けて施用し、肥料の利用率を高く維持しています。

特徴的な取り組みとして、高齢農家の圃場を借り、夏植、収穫、株出管理後に



参加者のみなさん

農家へ返却する取り組みを7年前から実施し、農家からは植付時の作業と費用負担がないと好評で、ご自身は植付面積拡大に繋がるので、双方にとつても利益がある取り組みです。

徳之島からは、優秀賞の大竹広之さん(伊仙町)、麗福太郎さん(天城町)、前田隆博さん(徳之島町)が参加しました。

OB会を開催

弊社OB交流会を10月19日 亀津のホテルグランドオーシャンリゾートで、38名のOB・OGをお迎えして開催しました。

久しぶりの対面ということもあり、あちらこちらで思い出話等で盛り上がり、余興では指宿桃子さんの島唄や徳之島高校蔵越エイサー隊などの演舞に会場の熱気も最高潮となり、最後の六調では、参加者全員で踊りの輪を作りました。



OB・OGのみなさん

運動会で躍動

5年ぶりの社内親睦大運動会を7月1日(土)に徳之島町健康の森運動公園で、役員と家族が参加して実施しました。

和気あいあいのちびっ子たちのかけっこや老若男女が一致協力した綱引きやムカデ競走に歓声が揚がり、最終競技の事業所対抗800mリレーでは、若手社員達の真剣勝負に大いに盛り上がりました。



躍動する若手社員

採用情報

弊社では令和7年4月の新卒採用(高卒、大卒、専門学校卒)と令和6年度のキャリア採用(中途)を予定しております。

これからの徳之島とさとうきび産業を担う人材を募集しています。

詳しい採用情報は3月以降にホームページで公開予定です。

お問い合わせ先

総務部 8513125



令和5年度入社社員



新役員体制のご案内

弊社第58回定時株主総会並びに取締役会におきまして下記のとおり役員が選任され、それぞれ就任いたしました。

つきましては、今後とも社業発展のため一層精励いたす所存でございますので、何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長	神崎俊信
常務取締役 徳之島事業本部長	網島弘建
常務取締役 企画経理部長	高垣建田
取締役 (製造統括部担当)	村田敬
取締役 農務部長	廣藤哲也
取締役 (非常勤)	伊小正
取締役 (非常勤)	三浦直善
監査役 (非常勤)	三谷善雄

なお、取締役 東正幸、取締役 松山洋次郎、取締役 武原清隆は、退任いたしました。在任中、賜りましたご厚情に厚く御礼申し上げます。

新役員紹介



取締役 村田 貢

昭和61年に入社以来、徳和瀬工場と伊仙工場での勤務を経てこの度、製造統括部担当取締役に就

任しました。環境が、大変厳しい状況となっておりますが、農家の皆様と従業員の方でこの難しい課題を乗り越ってまいります。工場では、安定操業を目指し農家から頂いたさとうきびから砂糖一粒を大事に歩留まり向上に努めてまいります。これまで以上のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い

このたび、11月の弊社株主総会において取締役を選任され、農務部門を担当させていただくことになりました。さとうきび産業の現状については周知の通り他の産業分野同様、地球規模の大きな産業変革の波にのまれ、且つ地域性に起因する人手不足や高齢化対策へ喫緊の対応を迫られているという状況にあります。

いたします。



取締役 農務部長 廣 敬造

しかるに島嶼部である南西諸島においてはさとうきびの基幹作物という位置付けでこれまでと変わりはなく認識され、更に直近は急激に国防においてのこの地域の重要存在意義もクローズ

アップされていることを鑑みると、如何様にしてもさとうきびの振興は継続していくべきという認識を強く固めているところでございます。一方、近年の「スマート農業」に代表されるようにITの加速的な進展には目を見張るものがあり、若者たちにとつて「カッコイイ農業」というイメージが芽生えつつあるのは暗い話題が多い中で実に絶好の材料だと感じています。高齢化や人手不足は一見ネガティブな材料にも見えますが、見方を変えれば、この状況は土地の流動化が加速し新しい技術を活用して若い担い手が大きく育つ絶好の契機ともなりうるものと捉えています。決して今置かれた状況は後ろ向きなものだけではないことが感じられまので、明るい未来に向けて手を携えてまいりましょう。

工場からのお願い

近年のさとうきび収穫の約99%はハーベスターで収穫しています。空き缶や鎌などの金属類が畑の中にあると、ハーベスターの刃物を傷め、そのまま工場に持ち込まれると工場の機械も傷めてしまいます。

場合によっては、工場を長時間停止することになり、農家の皆さんにご迷惑をおかけすることになりかねません。

工場を安定操業させるためにも、空き缶のポイ捨て防止や収穫前に園芸パイプの撤去をするなど、

金属類の混入防止にご協力をお願い申し上げます。



工場を確認された金属類